

111 私たちの解放者イエス(2)

ヨハネによる福音書 8 : 51~59

・・・・・・仮庵祭の7日目のこと（十字架にかかる前の年、半年前の仮庵祭）・・・・

51 はっきり言っておく。わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない。」

→回復訳：まことに、まことに（＝アーメン、アーメン）、わたしはあなたがたに言う。

52 ユダヤ人たちは言った。「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今はっきりした。アブラハムは死んだし、預言者たちも死んだ。ところが、あなたは、『わたしの言葉を守るなら（→8 : 31 わたしの言葉にとどまるならば）、その人は決して死を味わうことがない』と（訳の分からないことを）言う。

→人々はイエスが自分に従えば決して死なない（→肉体の死ではない）と言った意味が分からずにいる。
ユダヤ人たちはイエスが悪霊に取りつかれて、気が狂っていることを確信している。

53 わたしたちの父アブラハムよりも、あなたは偉大なのか。（決してそうではない。）彼は死んだではないか。預言者たちも死んだ。いったい、あなたは自分を何者だと思っているのか。」

54 イエスはお答えになった。

「わたしが自分自身のために栄光を求めようとしているのであれば、わたしの栄光はむなしい（→内容がなく、無に等しい）。わたしに栄光を与えてくださるのはわたしの父であって、あなたたちはこの方について、『我々の神だ』と言っている。

55 あなたたちはその方を知らないが、わたしは知っている。（だから、）わたしがその方を知らないと言えば、あなたたちと同じくわたしも偽り者になる。しかし、わたしはその方を知っており、その言葉を守っている。

56 あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。」

→（リビング・バイブル）あなたがたの先祖アブラハムは、わたしの日を思い見て喜びにあふれました。
わたしが来るとわかったからです。

57 ユダヤ人たちが、「あなたは、まだ（若く、祭司としての役割を終える）五十歳にもならないのに、アブラハムを見たのか」と言うと、

58 イエスは言われた。

「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、（神と共に）『わたしはある。』」

59 すると、ユダヤ人たちは、（イエスが神に等しい発言をしたことで、冒瀆罪にあたるとして）石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神殿の境内から出て行かれた。

→当時、神殿が工事中（ヘロデ大王はこの事業を通じて彼の名を永遠のものにすることに関心を寄せており、その事業は非常に広範囲に渡るものであった）だったので、神殿内には、かなりの石くず等が落ちていたと思われる。

【参考】創世記 6:3

主は言われた。「わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから。」
こうして、人の一生は百二十年となった。

